

# 2004年のねじ産業に関する報告

Report for Fastener Industry in 2004

2004年10月

Oct. / 2004

**【18】イワタボルト®**

SOFI Series —————  
Report for Fastener Industry in 2004  
30, October, 2004  
Planning Section, IWATA BOLT Co., Ltd.

---

SOFI シリーズ —————  
2004年のねじ産業に関する報告  
2004年10月30日  
編集・作成 イワタボルト(株)社長室

---

# 2004年のねじ産業に関する報告

2004年10月

平成15年（2003年）工業統計速報（要旨）がこのほど経済産業省より発表されましたが、これによると同年の我が国の鉦工業製品の出荷額は前年比1.7%増の264兆6,735億円、付加価値額も同1.3%増の93兆9,010億円となり、ともに3年ぶりの増加となりました。これは輸送機械が増加となったのをはじめ、一般機械、電子部品・デバイス、鉄鋼、化学など11産業で増加となったことが寄与しました。

平成16年（2004年）も自動車生産は前年を上回る状況で推移しつつあり、民間設備投資も旺盛で工作機械の生産についても好調を維持しているなど、昨年からの景況上昇を引続き確かなものに行っているといえるようです（おもな工業製品の生産動向は巻末を参照）。しかし、“中国特需”などを背景に鋼材不足や原油高騰が産業界に影響を及ぼしており、この先行きが不透明なこともあって今後の動向が極めて注視されるどころといえるでしょう。さらにねじ需要産業の主力業種のひとつである自動車産業は引続いて海外生産の拡大にも力を入れており、これは自動車に限らず家電や他の工業製品についても同様の傾向にあります。ただ最近では、技術集約型などの先端産業の分野では国内回帰と国内生産重視への動きがあり、海外展開のあり方も見直しされつつあるようです。とはいえ、市場のグローバル化は時代の流れであると言えますし、海外における現地生産や市場開拓への取り組みは、一方では今後ますます進展していくものと思われます。

こうした我が国産業界の動向に対し、IWATA BOLTは的確な対応を図るべく製造部門の強化と営業拠点の展開を国内および海外の両方にわたって引続き積極的に推進しているところです。

海外展開については、中国での新たな製造拠点として広東省深圳市に設立した現地法人 IWATA BOLT (SHENZHEN) CO., LTD. = 岩田螺絲（深圳）有限公司の工場第1期工事が2004年7月完了、本格量産に向けて稼働を開始しました（写真1及び2）。工場用地は32,000平方メートルの規模で、第1期工事面積として3,500平方メートルが完成し、現在おもな設備は高速ヘッダー13台、高速ローリングマシン17台、連続浸炭熱処理炉1基、関連設備にローラー選別機および各種試験検査機器一式を設備、熱処理までの一貫生産工場としてオープンしました。生産能力は月間50,000,000本となっており、進出企業の自動車関連、OA関連企業をはじめとする

需要家企業各社への現地における安定供給と品質確保を重視した信頼性の高い締結関連部品を提供することが可能となりました。

中国は、“世界の工場”、“世界の市場”として急速な発展を遂げており、2001年WTO加盟を果たした以降の拡大経済は目覚ましいものがあり、この中国での工場設立は、イワタボルトの新たな海外戦略の展開とも言えるものです。

中国工場は、第2期工事、第3期工事へと情勢にあわせて拡大していく計画ですが、すでに本年10月には第2期工事着工に向け始動しています。この第2期工場の施工面積は第1期工場とほぼ同様の3,500平方メートルで、2005年4月竣工予定となっており、全自動電鍍設備を導入して圧造から表面処理までを自社工場においてフル・ライン化することにより、従来からのご要望とご信頼に必ずやお応えできるものと確信しています。

今回の中国工場設立に伴い海外製造拠点としては米国ロサンゼルス工場、シンガポール工場を合わせ3拠点となり、それぞれの地域での現地に密着した安定供給の体制が敷かれたこととなります。勿論、国内の栃木工場および埼玉工場についても最新鋭設備の導入など一層の拡充を図っているところです。

写真 1



岩田螺絲（深圳）有限公司の正門。中国における新たな製造拠点としてオープン。現地の取引先企業に密着した締結関連部品の納入がスタートしました。

写真 2



岩田螺絲（深圳）有限公司の工場全景

## 〔 1 〕 ねじの生産・出荷

2004年ねじの生産・出荷は、鋳工業生産指数（季節調整済，00年＝100，経済産業省発表）が第1四半期（1～3月）98.7，第2四半期（4～6月）101.3，7月が100.7，8月は速報で101.0と上昇傾向にあり，この鋳工業生産の動向とともにねじ産業も1月から6月までの生産推移をみると何れも前年同月比プラス実績で推進しています。2003年のねじ生産は数量・金額ともに前年を上回る実績となりましたが，今年に入ってから上向きの状況が続いており，ねじ業界もようやく明るさを取り戻しつつあるというのが現状と言えます（表5，表6参照）。

先ず，平成14年（2002年）工業統計表をもとに我が国のねじ生産・出荷の状況からみることにします。経済産業省発行の同統計表は2年遅れで公表されますが，ねじ産業全体の動向を表わした唯一の資料となっているものです。

同統計表によると，平成14年における我が国のねじ産業（製造業，全事業所）の出荷額は前年比6.4%減の7,735億4千万円で2年続いたの前年比減少となりました。事業所数は同0.4%微減の4,482事業所でしたが，従業員数は同4.1%減の41,764人となり，ねじ産業にとっては極めて厳しい状況のもとにおかれた年であったということが出来ます（表2）。

この全事業所の統計は調査年により3人以下事業所についての推計値を取入れており，従業員数4人以上の事業所の調査がベースなので，ここでは表1をもとに概観することにします。従業員数4人以上規模の統計では，平成14年におけるねじ出荷額は7,516億5,600万円で前年比6.2%の減少，事業所数は1,892事業所で同6.7%減，従業員数では36,971人で同3.8%減となっています。付加価値額についても3,500億1,700万円で同5.4%減となっています。（付加価値額は，生産額から内国消費税額と原材料使用額など及び減価償却額を差引いた額）。

この平成14年の特徴的な状況としては，事業所数において全事業所調査では前年比0.4%減とわずかな減少幅に止どまっているのに対し，4人以上事業所調査では同6.7%減と136事業所も減少していることです。これは，ある程度以上の従業員規模のクラスの事業所では，特に厳しい経済環境におかれた年であったということも反映しているのかも知れません。また，もうひとつの特徴的な点は，4人以上事業所の出荷額については例年，全事業所出荷額の96%余を占めていますが，これが00年の96.3%，01年の96.9%，そして02年には97.2%とその比率が高まっていることです。しかし99年は96.6%の比率であり，今後の比率はどう推移していくのか注目される傾向のひとつです。

表3は，我が国ねじ産業（製造業）の4人以上事業所の出荷額がピークを示した

1991年の出荷実績以降の推移を表したものです。事業所数，従業員数ともに年々減少傾向にあり，出荷額は増減を繰り返しながらもやはりピーク時に比べると減少し

表1 ねじ産業5年間の推移（従業員4名以上，工業統計表産業編より）（出荷額・付加価値額＝百万円）

	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年
事業所数	2,429	2,176	2,239	2,028	1,892
%	100.0	89.6	92.2	83.5	77.9
従業員数	40,971	39,298	39,634	38,451	36,971
%	100.0	95.9	96.7	93.8	90.2
出荷額	861,145	798,717	826,796	800,947	751,656
%	100.0	92.8	96.0	93.0	87.3
付加価値額	391,253	366,104	387,833	370,167	350,017
%	100.0	93.6	99.1	94.6	89.5

表2 ねじ産業5年間の推移（全事業所，同産業編より）（出荷額＝百万円）

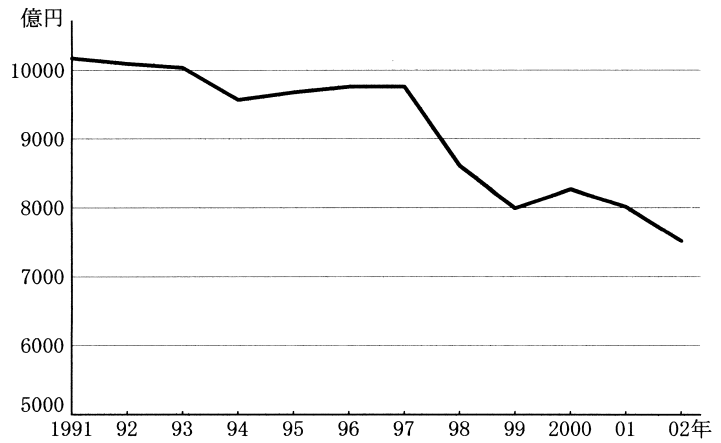
	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年
事業所数	5,225	4,825	4,821	4,500	4,482
%	100.0	92.3	92.3	86.1	85.8
従業員数	46,660	44,849	44,932	43,548	41,764
%	100.0	96.1	96.3	93.3	89.5
出荷額	894,415	826,890	858,319	826,624	773,540
%	100.0	92.5	96.0	92.4	86.5

表3 ねじ産業の推移（出荷額ピークの1991年以降，4人以上事業所）

年	事業所数	%	従業員数	%	出荷額(百万円)	%
1991	2,882	100.0	48,653	100.0	1,179,713	100.0
92	2,676	92.9	46,236	95.0	1,100,448	93.3
93	2,720	94.4	46,212	95.0	1,033,690	87.6
94	2,465	85.5	43,819	90.1	957,742	81.2
95	2,561	88.9	44,361	91.2	968,054	82.1
96	2,410	83.6	43,962	90.4	975,860	82.7
97	2,343	81.3	43,019	88.4	976,019	82.7
98	2,429	84.3	40,971	84.2	861,145	73.0
99	2,176	75.5	39,298	80.8	798,717	67.7
00	2,239	77.7	39,634	81.5	826,796	70.1
01	2,028	70.4	38,451	79.0	800,947	67.9
02	1,892	65.6	36,971	76.0	751,656	63.7

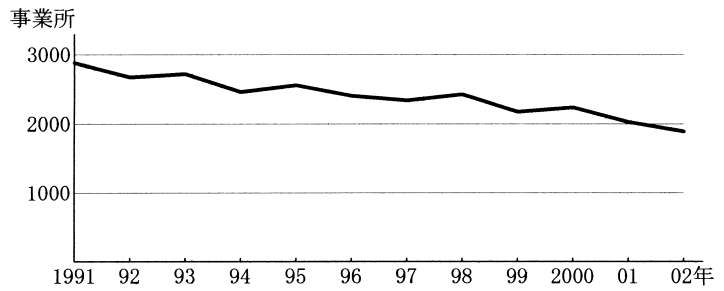
グラフ - 1

ねじ出荷額の推移：4人以上事業所（1991年がピーク）



グラフ - 2

事業所数の推移：4人以上事業所（1991年以降）



グラフ - 3

従業員の推移：4人以上事業所（1991年以降）

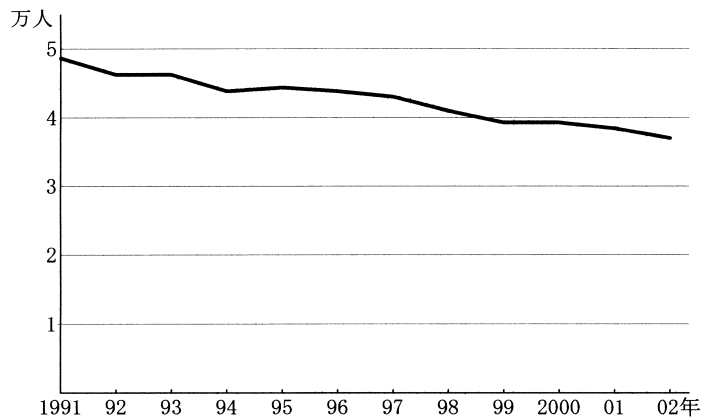


表4 品種別出荷状況（従業員4名以上，工業統計表品目編による）

（出荷量トン，出荷額百万円）

	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	
ボルト・ナット	量 %	2,224,927 100.0	2,178,988 97.9	2,211,565 99.4	2,146,477 96.5	1,982,388 89.1
	額 %	565,904 100.0	529,462 93.6	553,758 97.9	539,619 95.4	518,846 91.7
小ねじ・木ねじ	量 %	290,230 100.0	249,960 86.1	289,650 99.8	256,161 88.3	214,084 73.8
	額 %	105,140 100.0	101,138 96.2	103,282 98.2	89,977 85.6	80,387 76.5
リベット	量 %	91,559 100.0	96,101 105.0	66,056 72.1	80,040 87.4	71,381 78.0
	額 %	25,637 100.0	23,971 93.5	25,965 101.3	25,142 98.1	24,024 93.7
座金	量 %					
	額 %	24,963 100.0	24,404 97.8	23,563 94.4	24,114 96.6	21,682 86.9
関連製品	量 %					
	額 %	111,282 100.0	97,223 87.4	108,535 97.5	104,376 93.8	97,413 87.5
合計	量 %	2,606,716 100.0	2,525,049 96.9	2,567,271 98.5	2,482,678 95.2	2,267,853 87.0
	額 %	832,926 100.0	776,198 93.2	815,103 97.9	783,228 94.0	742,352 89.1

ています。しかし，この出荷額の減少は，我が国のねじ製造業の海外進出に伴う現地生産化が反映している面もあるものと思われます。グラフ1,2,3は同表を折れ線グラフで示したもので，前述の傾向がよく把握できます。

また，平成14年の4人以上事業所の出荷額についてもう少し分析してみると，1事業所当たりの出荷額では前年比プラスとなっています。同年の1事業所当たり出荷額は3億9,728万円の前年比0.6%増とわずかながら増加しています。98年の同出荷額は3億5,453万円を以て年々増加を辿っている状況にあり，4人以上の1事業所の年間出荷額ではこの5年間は連続して前年比プラスで推移していることが表1の出荷額と事業所数から割りだされます。



表5 ねじの年別生産推移

単位：生産量トン，出荷額百万円（社）日本ねじ工業協会資料より）

	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	03 / 02%	
ボルト	量	1,419,276	1,502,834	1,435,562	1,426,008	1,523,807	+ 6.9
	額	310,682	329,213	308,706	306,914	326,199	+ 6.3
ナット	量	705,712	774,582	771,432	807,960	795,995	- 1.5
	額	193,037	207,748	205,566	220,694	222,536	+ 0.8
小ねじ	量	301,626	318,902	293,624	291,368	279,334	- 4.3
	額	115,809	122,772	106,311	98,914	96,270	- 2.7
木ねじ	量	7,544	7,352	6,817	6,077	6,640	+ 9.3
	額	3,562	3,352	3,147	2,749	2,915	+ 6.0
合計	量	2,434,158	2,603,670	2,507,435	2,531,413	2,605,776	+ 2.9
	額	623,090	663,085	623,730	629,271	647,920	+ 3.0

表6 2004年1～6月の月別ねじ生産推移

単位：同上（社）日本ねじ工業協会資料より）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	1～6月	
ボルト	量	126,095	136,661	147,639	137,506	124,013	143,424	815,338
	額	27,110	29,382	32,038	29,151	26,291	30,693	174,665
ナット	量	63,355	68,593	75,502	70,999	64,548	73,206	416,203
	額	18,056	19,206	21,065	19,525	17,880	20,424	116,156
小ねじ	量	22,559	24,247	26,491	25,054	22,049	25,129	145,529
	額	7,918	8,438	9,245	8,769	7,827	8,871	51,068
木ねじ	量	517	528	569	540	505	627	3,286
	額	222	221	243	234	227	280	1,427
合計	量	212,526	230,029	250,201	234,099	211,115	242,386	1,380,356
	額	53,306	57,247	62,591	57,679	52,225	60,268	343,316

次に、平成14年におけるねじの品種別出荷の状況をみると表4に示す状況となっています。ボルト・ナット、小ねじ類、リベット、ねじ関連製品および座金類の5品目総計7,423億5,2百万円で前年比5.2%の減少です。なお、この出荷額と表1の出荷額とが一致していないのは、表1の出荷額には製造品出荷額に加工賃収入額と製造工程から出たくず及び廃物の出荷額などの収入額を含んでいるためです。

また、出荷量では226万7,853トンで前年比8.7%減となっています。但し、この

出荷量にはねじ関連製品と座金類の生産数量は含まれていないので、この2品目の数量を合わせると出荷量はもっと多くなる訳です。

品目別の出荷状況では、ボルト・ナットが5,188億4,600万円（前年比3.9%減）、小ねじ類が803億8,700万円（同10.7%減）、リベットが240億2,400万円（同4.4%減）、ねじ関連製品が974億1,300万円（同6.7%減）、座金類が216億8,200万円（同10.1%減）となっています。小ねじ類と座金類の2品目が前年比10%以上のマイナスとなり、ボルト・ナットは減少幅が最も小さい品目となっています。リベットも4%余の減に止どまっています。

またこれを出荷量でみた場合は、ボルト・ナットが198万2,388トン（前年比7.6%減）、小ねじ類が21万4,084トン（同16.4%減）、リベットが7万1,381トン（同10.8%減）という状況で、出荷数量では小ねじ類の減少の大きいのが目立っています。

続いて表5と表6で、ねじ生産の状況を見てみます。同表は(社)日本ねじ工業協会の調査資料によるものですが、ボルト・ナットの品目が工業統計のように一緒ではなく別個になっていますので、品目別の動向がわかります。

同資料によると平成15年（2003年）のボルト・ナット、小ねじ（タッピンねじを含む）、木ねじの4品目合計の生産は6,479億2,000円で前年比3.0%の増加を示し、数量では260万5,776トンで同2.9%増加となっています。同資料では平成14年、15年と2年連続で生産が回復している状況が示されています。

品目別の動向では、ボルトが3,261億9,900万円（前年比6.3%増）、ナットが2,225億3,600万円（同0.8%増）、小ねじ（タッピンねじを含む）が962億7,000万円（同2.7%減）、木ねじが29億1,500万円（同6.0%増）という状況。4品目の中で小ねじ（タッピンねじを含む）のみが前年比マイナスを示しています。

これを数量でみると、ボルトの生産は152万3,807トン（前年比6.9%増）、ナットは79万5,995トン（同1.5%減）、小ねじ（タッピンねじを含む）は27万9,334トン（同4.3%減）、木ねじは6,640トン（同9.3%増）という状況に。生産量では、ナットおよび小ねじが前年比マイナスとなっています。

今年に入っての2004年1月～6月の半年間における状況では、4品目合計で生産額は3,433億1,600万円であり前年同期比7.3%増、数量では138万356トンで前年同期比8.3%増と、金額および数量ともに増加しています。また、この上半期の生産では全品目ともに金額および数量が前年同期比プラスとなっているのが特徴的で、それだけねじ生産も回復へ確実に向いつつあるのが現状といえます。

品目別にみるとボルトは1,746億6,500万円（前年同期比8.9%増）、ナットが1,161億5,600万円（同5.1%増）、タッピンねじを含む小ねじが510億6,800万円（同7.2%増）、木ねじが14億2,700万円（同0.2%増）という状況。

数量でみた場合は、ボルトが81万5,338トン（前年同期比10.6%増）、ナットが41

万6,203トン（同5.2%増）、タッピンねじを含む小ねじが14万5,529トン（同4.7%増）、木ねじが3,286トン（同1.6%増）となっています。生産数量では、4品目のうちボルトのみが前年同期比10.6%増と2桁増の伸びを示しているのが注目される所です。

## 〔2〕ねじの輸出

我が国のねじの輸出はこの5年間は増減をたどりながら推移し、2002年に輸出金額で過去最高（それ迄の最高は1997年の1,400億9,200万円）を示しましたが、2003年実績も連続して増加し前年比2.1%増の1,553億7,000万円となって更に最高額を示しました。輸出数量でも2003年は前年比8.7%増の19万8,619トンとなり、20万トン台に迫る増伸の様相を示しています。

このような輸出の増伸は、輸出総額の4割余を占める主力の米国向けが堅調に推移しているのに加え、東アジア地域への輸出が増加し、特に中国向けが大幅に伸びていることが背景となっています。かつてのねじ輸出では、当該国の輸入業者などが需要家に売込むために日本から調達するといったケースが主体でありましたが、近年は我が国から海外進出したユーザー企業に日本のねじ企業が直接、間接にしろ納入するための輸出も相当量の割合になっているものと思われ、ねじ輸出の状況も大きく変化してきているのが実状といえます。進出ユーザーは使用するねじ部品の安定的な確保とコスト対策などから現地調達の方角に向いていますが、必要とする全てのねじ部品が現地調達可能ではないでしょうし、日本からの輸出で対応する商品も相当あるにちがいません。こうした状況から日本企業が多く進出している東南アジアや特に中国などへのねじ輸出が増伸しているのが近年の特徴的な傾向であるといえます。

先ず2003年のねじ輸出の品目別の状況では、16品目のうち数量で前年比マイナスとなったのは主要品目ではステンレスボルト、ステンレスナット、木ねじ、ばね座金の4品目だけで、殆どの品目がプラス実績となっています。（表7）

ボルト類では、鉄鋼製ボルトが前年比7.5%増の10万3,104トン（金額0.8%微増の578億1,200万円）、ステンレスボルトは8.7%減の1,606トン（同4.5%増の20億6,900万円）、ナット類では、鉄鋼製ナットが13.7%増と2桁増の4万6,521トン（同4.8%増の333億6,800万円）、ステンレスナットは4.6%減の1,100トン（同1.7%増の17億1,300万円）という状況です。

タッピンねじは4.7%増の9,707トン（同10.7%増の82億6,800万円）、小ねじを含むその他ねじが3.5%増の1万5,054トン（同3.0%減の243億4,900万円）、リベットが7.0%増の2,106トン（同8.2%増の26億1,900万円）、ねじを切っていない製品が

表7 ねじの輸出（品目別）

単位：重量トン，金額百万円（貿易統計より）

		2002年	2003年	03/02増減%	2004.1～6
鉄鋼製ボルト	重量	95,867.0	103,104.4	+7.5	57,486.0
	金額	57,345.8	57,812.4	+0.8	31,611.4
ステンレスボルト	重量	1,759.8	1,606.3	-8.7	827.4
	金額	1,979.2	2,069.4	+4.5	1,202.8
鉄鋼製ナット	重量	40,908.6	46,521.7	+13.7	24,538.6
	金額	31,825.2	33,368.1	+4.8	17,963.3
ステンレスナット	重量	1,153.0	1,100.1	-4.6	518.1
	金額	1,684.8	1,713.1	+1.7	862.7
鉄鋼製タッピンねじ	重量	9,272.6	9,707.9	+4.7	5,002.5
	金額	7,469.5	8,268.5	+10.7	4,131.8
鉄鋼製木ねじ	重量	383.7	280.4	-26.9	115.3
	金額	330.2	317.6	-3.8	130.4
鉄鋼製その他のねじ	重量	14,539.6	15,054.9	+3.5	7,821.3
	金額	25,092.7	24,349.1	-3.0	12,659.5
鉄鋼製その他ねじ付品	重量	954.6	1,156.5	+21.2	736.0
	金額	1,232.1	1,483.6	+20.4	859.7
鉄鋼製リベット	重量	1,969.8	2,106.9	+7.0	1,170.5
	金額	2,421.4	2,619.0	+8.2	1,420.8
鉄鋼製ねじ無製品	重量	4,659.7	5,503.3	+18.1	3,329.4
	金額	8,287.0	7,449.0	-10.1	3,925.1
鉄鋼製コーチねじ	重量	82.1	125.4	+52.7	122.1
	金額	124.9	164.8	+31.9	166.0
鉄鋼製スクリューフック	重量	30.2	24.9	-17.5	14.3
	金額	75.0	69.2	-7.7	38.7
鉄鋼製ばね座金	重量	1,682.5	1,672.8	-0.6	1,019.0
	金額	1,858.4	2,203.8	+18.6	1,427.1
鉄鋼製平座金	重量	8,413.2	9,347.5	+5.1	6,127.0
	金額	10,404.9	10,931.0	-12.1	6,375.3
鉄鋼製コッターピン	重量	620.9	769.4	+23.9	297.7
	金額	992.6	1,333.4	+34.3	564.1
銅製品	重量	473.3	537.3	+13.5	269.7
	金額	963.3	1,155.7	+20.0	512.3
総計	重量	182,770.6	198,619.7	+8.7	109,395.1
	金額	152,087.0	155,307.7	+2.1	83,851.0

18.1%増の5,503トン（同10.1%減の74億4,9百万円）となっています。座金類では，ばね座金が0.6%減の1,672トン（同18.6%増の22億3百万円），平座金が5.1%増の9,347トン（同12.1%減の109億3,1百万円），また，コッター及びコッターピン類が23.9%増の769トン（同34.3%増の13億3,3百万円）という状況になっています。

表8 ねじの輸出（主要国別，銅製品を除く）

単位：トン（貿易統計より）

	2002年	2003年	03/02増減%	国別比率	2004.1~6
総計	182,297.3	198,082.4	+ 8.7	100.0	109,125.4
米国	77,907.1	82,612.8	+ 6.0	41.7	43,014.5
欧州	26,989.5	30,479.5	+ 12.9	15.4	16,338.8
韓国	1,185.1	1,330.3	+ 12.3	0.7	710.1
中国	8,882.5	14,982.4	+ 68.7	7.6	10,129.1
台湾	4,089.9	5,230.0	+ 27.9	2.6	4,781.9
香港	3,534.5	3,514.6	- 0.6	1.8	1,713.5
タイ	14,250.3	15,141.9	+ 6.3	7.6	8,992.9
シンガポール	2,964.4	2,530.0	- 14.7	1.3	1,508.7
マレーシア	7,028.5	5,980.6	- 14.9	3.0	2,816.7
インドネシア	10,060.4	9,932.5	- 1.3	5.0	5,795.6
フィリピン	2,542.4	2,849.4	+ 12.1	1.4	1,231.0
他	22,862.7	23,498.4	+ 2.8	11.9	12,092.6

表9 ねじ輸出の推移

（貿易統計より）

	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年
数量(トン)	158,707.8	173,557.2	163,703.1	182,770.6	198,619.7
%	100.0	109.4	103.1	115.2	125.1
金額(百万円)	123,432.9	139,753.5	135,540.4	152,087.0	155,307.7
%	100.0	113.2	109.8	123.2	125.8

今年に入ってから輸出の状況は表7の右段に示してありますが、2004年1～6月の上半期実績では数量で10万9,395トン（前年同期は9万5,219トン）を示し前年同期比14.9%増と増伸、輸出額も838億5,1百万円（同759億5,2百万円）と前年同期比10.4%増の増伸であり、下半期もこの傾向で推移すれば2004年のねじ輸出は前年の過去最高実績を再び更新しそうです。

なお、参考までに、輸出数量で過去最高を示したのは1977年（昭和52年）の輸出実績で38万4,036トン、輸出額では949億5,3百万円でした。現在と比較してみるとトン当り価格はだいぶ安くなっていますが、当時は我が国の国策として輸出振興を推進し、ねじ輸出メーカーも“輸出貢献企業”として認定を受け貿易に注力していた時代でした。また、この輸出数量ピーク時の米国向け比率は実に82.5%という極めて高い割合を占めていたのも特徴です。現在の対米向け輸出比率が41.7%という状況からみると、それだけ我が国の輸出相手国が拡大しているといえますし、輸出の内容も前述のように海外展開しているユーザー向け納入など様変わりしていることがあげられるでしょう。

表8は、おもな輸出先の国・地域別の状況をみたものですが、米国向けが国別比率で41.7%を占め前年比6.0%増の8万2,612トンの輸出となっています。次いで欧

州向けが15.4%の比率で前年比12.9%増の3万479トン輸出、これに続くのがタイ向けの7.6%の比率で前年比6.3%増の1万5,141トン輸出しています。さらに注目されるのが前述でも示したように対中国輸出であり、国別比率では7.6%（02年は4.9%）と比率を高め前年比68.7%増の1万4,982トンと大幅な伸びを示しています。2003年での国別比率では中国向けはタイ向けと同率となっていますが、2004年1～6月の輸出実績（表8の右段）をみますと、すでに中国向けがタイを抜いて第3位に浮上しており、中国におけるねじ需要が如何に進展しているかが伺い知れるといえます。

中国経済は余りにも急激な成長を遂げているために、その反動や国内地域格差の是正などが心配され、このため様々な施策が最近取り入れられているようですが、2008年の北京オリンピック、2010年の上海万博開催に向けて経済発展を更に続けていくのは確かなところであるとみられます。すでに中国は巨大な市場であるとともに、我が国の強力な競争相手国となっている訳で、中国に対する関心は何れにしても今後ますます高まっていくことになるでしょう。

### 〔3〕ねじの輸入

我が国のねじ輸出は前項のように数年来増加傾向にあります。一方でねじの輸入についても増加の一途をたどっています。2000年に11万2,000トン余と10万トン台に乗った以降も毎年増伸し、2003年実績では前年比20.0%増の15万2,644トン（金額でも同11.2%増の427億4,800万円）と大幅な伸びを示しました（表10）。しかも特徴的なのが、今日では輸入数量では中国が最大の調達国となっていることです。2000年までは台湾からの輸入量が第1位でしたが、2001年以降は中国からの輸入量がトップの座にあります（表11参照）。

2003年の品目別の輸入状況からみていくと、全16品目のうち数量ではタッピンねじのみが減少した以外は何れの品目も大きな伸びとなっています。

ボルト類では、鉄鋼製ボルトが前年比24.2%増の5万4,155トン（金額は同9.7%増の100億1,200万円）、ステンレスボルトは34.6%増の8,886トン（同24.5%増の30億9,500万円）で、ナットでは鉄鋼製ナットが15.3%増の2万1,618トン（同6.4%増の69億6,400万円）、ステンレスナットが22.6%増の6,182トン（同22.3%増の30億2,500万円）という状況です。

タッピンねじは3.9%減の8,781トン（同0.6%微増の19億2,900万円）で、同品目だけが数量でマイナス実績ですがその理由は不明です。これに対して木ねじは18.7%増の1万5,172トン（同16.7%増の28億2,000万円）と増加しています。

小ねじを含むその他のねじは12.6%増の1万4,279トン（同11.1%増の54億1,300万円）

表10 ねじの輸入（品目別）

単位：重量トン，金額百万円（貿易統計より）

		2002年	2003年	03/02増減%	2004.1～6
鉄鋼製ボルト	重量	43,618.3	54,155.3	+24.2	32,668.0
	金額	9,128.9	10,012.0	+9.7	5,506.7
ステンレスボルト	重量	6,603.6	8,886.6	+34.6	4,988.2
	金額	2,486.7	3,095.7	+24.5	1,872.3
鉄鋼製ナット	重量	18,752.1	21,618.3	+15.3	13,166.5
	金額	6,544.8	6,964.4	+6.4	3,786.1
ステンレスナット	重量	5,043.1	6,182.7	+22.6	3,331.9
	金額	2,473.7	3,025.0	+22.3	1,787.0
鉄鋼製タッピンねじ	重量	9,142.9	8,781.8	-3.9	4,268.8
	金額	1,917.5	1,929.5	+0.6	969.4
鉄鋼製木ねじ	重量	12,783.4	15,172.3	+18.7	8,202.4
	金額	2,400.8	2,802.2	+16.7	1,484.7
鉄鋼製その他のねじ	重量	12,685.5	14,279.5	+12.6	9,347.9
	金額	4,870.9	5,413.8	+11.1	3,263.1
鉄鋼製その他ねじ付品	重量	2,495.3	3,737.4	+49.8	2,208.2
	金額	1,163.8	1,462.5	+25.7	841.9
鉄鋼製リベット	重量	838.6	884.1	+5.4	580.9
	金額	486.1	468.6	-3.6	312.1
鉄鋼製ねじ無製品	重量	1,677.3	2,025.3	+20.7	1,282.7
	金額	2,368.0	2,353.0	-0.6	1,316.8
鉄鋼製コーチねじ	重量	878.3	1,464.1	+66.7	1,136.6
	金額	109.5	174.9	+59.7	141.0
鉄鋼製スクリューフック	重量	252.0	274.6	+9.0	139.4
	金額	91.1	100.2	+10.0	59.5
鉄鋼製ばね座金	重量	3,634.9	3,923.5	+7.9	2,357.0
	金額	737.8	742.9	+0.7	450.0
鉄鋼製平座金	重量	8,009.7	10,050.3	+25.5	5,634.6
	金額	2,684.0	2,914.6	+8.6	1,545.6
鉄鋼製コッタピン	重量	99.4	169.9	+70.9	78.0
	金額	162.9	206.5	+26.8	92.9
銅製品	重量	738.9	1,039.2	+40.6	646.7
	金額	813.1	1,082.3	+33.1	692.8
総計	重量	127,253.3	152,644.9	+20.0	90,037.8
	金額	38,439.6	42,748.1	+11.2	24,121.9

万円)，その他ねじ付製品は49.8%増と大きな伸び率で3,737トン（同25.7%増の14億6,200万円），ねじ無製品は20.7%増の2,025トン（同0.6%減の23億5,300万円），リベットは5.4%増の884トン（同3.6%減の4億6,800万円）となっています。

ワッシャ類では，ばね座金が7.9%増の3,923トン（同0.7%増の7億4,200万円）

表11 ねじの輸入（主要国別、銅製品を除く）

単位：トン（貿易統計より）

	2002年	2003年	03/02増減%	国別比率	2004.1～6
総計	126,514.4	151,605.7	+19.8	100.0	89,391.1
米 国	1,092.8	1,147.0	+5.0	0.8	507.3
欧 州	1,475.2	1,879.8	+27.4	1.2	1,203.3
韓 国	6,058.5	7,172.1	+18.4	4.7	3,808.3
中 国	59,650.4	73,954.4	+24.0	48.8	44,297.3
台 湾	47,075.6	55,055.6	+17.0	36.3	31,640.2
タ イ	3,597.9	3,370.1	-6.3	2.2	2,006.2
シンガポール	46.4	24.6	-47.0	0.0	12.1
マレーシア	5,464.6	5,638.9	+3.2	3.7	3,690.5
インドネシア	1,438.9	2,204.7	+53.2	1.5	1,212.5
他	614.1	1,158.5	+88.7	0.8	1,013.4

表12 ねじ輸入の推移

（貿易統計より）

	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年
数量(トン)	92,889.8	112,341.4	124,743.5	127,253.3	152,644.9
%	100.0	120.9	134.3	137.0	164.3
金額(百万円)	29,935.8	33,224.6	38,489.2	38,439.6	42,748.1
%	100.0	111.0	128.6	128.4	142.8

で、平座金は25.5%増と伸び1万50トンと初めて1万トンを超えています（金額では8.6%増の29億1,400万円）。コッタピンも40.6%増の1,039トン（同26.8%増の2億6,000万円）が輸入されました。またコーチねじが数量で66.7%増の1,400トンを超えているのも注目されます。ちなみにコーチねじは木ねじの大型サイズといえるもので物流の木製パレットや機械輸送時の木枠などに使用されるものであり、輸入量が増えるのはそれだけ我が国の経済活動が活発化していることを表しているとも言えそうです。

2004年に入ってからねじ輸入は増加しており、この1～6月上半期における輸入実績は9万トン余（前年同期は7万5,902トン）で前年同期比18.6%増となっており、輸入額も241億2,100万円（同216億2,300万円）で前年同期比11.6%増を示しています。ねじ輸入についてもこのように前年実績を更新する傾向が続いています（表10の右欄参照）。

表11は、主要国・地域別のねじ輸入の状況を数量ベースでみたものですが、中国からの輸入が前年比24.0%増の7万3,954トンで国別比率も48.8%（前年は47.1%）となり全ねじ輸入量のほぼ半分を占める最大の調達国となっています。これに次ぐ台湾からの輸入も17.0%増の5万5,055トンで国別比率は36.3%（前年は37.2%）となっており、この中国と台湾からの輸入だけで全輸入量の85.1%を占めている状



況です。表11右欄にみるように今年に入ってから中国からの輸入は上半期1～6月で4万4,297トン（前年同期は3万6,963トン）、台湾からの輸入も同3万1,640トン（同2万7,045トン）と増加しています。

#### 〔4〕ねじの流通

我が国のねじ生産の動向については前項で概観したような状況ですが、一方、ねじ流通商社（卸問屋、直需商社）によって販売されている状況をみますと、平成14年度（平成14年4月～同15年3月末）における取扱い販売高は4,109億円余となっています。このねじ流通商社による取扱い販売高には、国内ねじメーカーから仕入れた商品のほかに輸入されている各種ねじ類も含まれており、その内訳は明らかではありませんが、何れにしても相当量のねじ製品が流通商社を經由して最終ユーザーに納入されていることとなります。

ねじ流通分野の実態については流通が複雑なだけに未知数な面がありますが、その動向を知り得る手がかりとなるのは日本ねじ商業協同組合連合会の「ねじ流通商社経営実態調査報告書」です。上記の販売高は同連合会の調査によるもので、加盟する全国367社を対象に実施されました。

同報告書によると、平成14年度の販売高は4,109億7,100万円（推定）で前年度比1.3%増とわずかながら増加に転じています。しかし、平成12年度の販売高に比べるとまだ下回っている状況です。（表13）

また、同連合会に加盟する企業数は平成元年度（1989年）には426社をかぞえていましたが、前項にみたねじ製造業事業所数の年々の減少傾向と同様に、ねじ流通を担う商業者数についても年々減少をたどり平成元年の当時から59社も減少していることとなります。この減少は事業継続しているが加盟を脱退した企業のほか、廃業や倒産、転業した企業などによるものです。平成14年度の加盟企業数も前年度に比べて7社の減少となっています。

流通に携わる従業員数についても同様の傾向にあって平成元年度には11,103人でしたが年々減少し、平成14年度には8,004人となり、当時からみると3,099人の減少となっています。平成14年度も前年度比122人の減少です。

同報告書ではまた、流通商社の販売高について1社平均の販売高を示していますが、平成14年度における1社平均年間販売高は11億3,747万円となっています。平成13年度は9億4,641万円でしたから、前年度比20.2%増加です。従業員一人当りの販売高の状況では、平成14年度の一人当り年間販売高は5,135万円です。平成13年度は4,994万円でしたから前年度比2.8%の増加となっています。

これらの対前年度比プラスの数値からみると、平成14年度におけるねじの流通部門

表13 ねじ流通商社の推移（ねじ商連調査資料を参考に作成）

（販売高・百万円）

	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
企業数	397	391	384	374	367
%	100.0	98.5	96.7	94.2	92.4
従業員数	8,848	8,364	8,076	8,126	8,004
%	100.0	94.5	91.3	91.8	90.5
販売高	418,761	396,463	411,916	405,828	410,971
%	100.0	94.7	98.4	96.9	98.1

はようやく回復へと向かいつつあることが言えそうです。

また同報告書は調査回答のあった265社についての販売高内訳として国内販売と輸出の内訳を示していますが、これによると国内販売は2,938億7,9百万円（96.8%）で輸出が98億2,5百万円（3.2%）となっています。平成13年度では国内販売が99.5%、輸出が0.5%の比率でしたから、平成14年度は輸出が前年度比2.7ポイント上昇し、海外へのねじ供給が活発化しているといえるようです。

### ねじ需要産業の動向（参考）

ねじ需要産業の動向についての指標のひとつとなる鋳工業生産の推移は先にもふれましたが、平成15年8月（指数93.0＝平成12年100）以降の同指数は上昇傾向を続けており、政府も生産は引続いて緩やかな上昇にあると発表しています。

この鋳工業生産指数のもととなっている我が国工業製品の生産動向をみると、自動車、工作機械、デジタル家電機器などにわたって生産は増加しています。パソコンの生産も昨年までの低迷から上向きに転じ、デジタルカメラはこの6月まで生産拡大の一途にあります。デジタル家電製品は今年のアテネ五輪開催もあって大型の最新式薄型テレビやDVD関連機器などを中心に売れ続き家電業界は活況を呈しました。これらの家電製品はアテネ五輪後の反動を心配する向きもあるようですが、どのように推移するのでしょうか。以下の付表は、おもな工業製品（経済産業省生産動態調査より）の中から取り上げてみた生産状況の実数値です。

自動車の生産台数は平成14年、15年と1千万台を超えましたが、平成16年1～6月半年間の生産実績では530万4,135台となり、前年同期の512万9,924台に比べ3.4%の生産増加となっています。下半期も同様の状況で推移すると今年も1千万台の大台を維持することになりますが、7月生産は92万5,705台（前年同月比0.5%増）、8月生産は69万8,105台（同2.5%増）となっており、8月の実生産は例年減少していますので、ほぼ1千万台を超えるものとみられます。

## ▷自動車

(台)

	乗 用 車	軽乗用車	トラック	軽トラック	バ ス	計
平成13年	6,838,921	1,278,642	1,035,217	560,863	58,092	9,771,735
14年	7,308,527	1,309,830	1,054,038	512,373	66,321	10,251,089
15年	7,188,108	1,290,220	1,211,042	524,427	61,074	10,274,871
16年 1月	581,318	103,379	98,359	37,659	4,974	825,689
2月	634,858	130,473	99,991	41,769	5,547	912,638
3月	708,288	154,815	108,373	51,170	6,018	1,028,664
4月	585,009	117,704	97,872	42,974	4,749	848,308
5月	512,037	110,480	86,199	41,586	4,540	754,842
6月	657,745	114,928	105,190	50,763	5,368	933,994
1～6月計	3,679,255	731,779	595,984	265,921	31,196	5,304,135

## ▷工作機械、他

(台)

	工 作 機 械	油圧・空圧機器	はん用内燃機関	フォークリフトトラック
平成13年	74,543	53,445,618	6,923,302	106,853
14年	55,809	48,488,852	6,941,854	101,641
15年	65,861	59,700,118	7,292,675	109,454
16年 1月	5,539	5,518,051	596,960	8,247
2月	6,128	5,794,015	646,054	9,328
3月	7,619	6,354,763	724,587	11,084
4月	6,047	6,281,328	588,402	9,541
5月	6,184	5,808,683	535,965	9,133
6月	6,649	6,544,210	612,989	11,271
1～6月計	38,166	36,301,050	3,704,957	58,604

## ▷デジタルカメラ、複写機など

	デジタルカメラ	ビデオカメラ	デジタル複写機	フルカラー複写機
平成13年	12,784,559台	9,096,790台	881,476台	164,476台
14年	16,909,470	10,014,891	582,586	294,733
15年	25,084,449	11,876,507	525,055	363,988
16年 1月	1,833,195	547,778	29,318	32,794
2月	1,694,601	993,048	39,484	45,194
3月	2,159,527	1,562,212	60,337	40,891
4月	2,094,475	1,271,479	35,330	33,144
5月	2,407,376	1,075,326	34,793	30,996
6月	2,634,480	996,395	33,280	36,894
1～6月計	12,823,654	6,446,238	232,542	219,913

金属工作機械の生産は、民間企業の設備投資の回復と本格化の情勢のもとに昨年  
から上昇を続け、平成15年実績は65,861台で前年比18.0%増の伸びを示しました。

▷パソコン，携帯電話ほか

	パソコン	携帯電話	DVDビデオ	カーナビ
平成13年	11,464,827台	53,652千台	2,831,626台	2,574,330台
14年	9,448,408	46,072	2,340,100	3,027,298
15年	8,786,606	59,460	3,284,086	3,811,379
16年 1月	781,239	3,940	155,164	293,704
2月	750,267	3,969	149,775	354,391
3月	971,315	5,649	278,722	395,643
4月	706,943	3,986	298,397	395,836
5月	657,069	3,647	186,136	367,819
6月	753,556	4,653	268,494	448,719
1～6月計	4,620,389	25,844	1,336,688	2,256,112

▷家電

	液晶テレビ	電気冷蔵庫	電気洗濯機	セパレート型エアコン
平成13年	1,202,623台	3,875千台	4,059千台	7,038,672台
14年	1,649,986	3,316	3,524	5,894,342
15年	1,833,445	2,859	3,133	5,420,771
16年 1月	128,993	176	257	355,254
2月	173,018	198	280	425,465
3月	219,264	245	283	588,457
4月	187,802	277	277	660,533
5月	207,101	264	224	641,821
6月	250,933	330	247	762,726
1～6月計	1,167,111	1,490	1,568	3,434,256

今年1～6月上旬実績では38,166台となり，前年同期の32,066台に比べ19.0%増の増加となっています。この勢いを受けて今秋11月初めに一週間東京ビッグサイトで開催される世界3大工作機械見本市のひとつ日本国際工作機械見本市では，2年毎の専門見本市として今回開催に大きな期待を寄せているところです。

油・空圧機器（六角穴付きボルトや六角穴付き止めねじを多く使用する）も平成15年生産台数は前年比23.1%増，今年1～6月実績も前年同期比32.9%増と大幅に増加しています。はん用内燃機関は平成15年生産台数が前年比5.1%増ですが，今年1～6月実績では前年同期比1.5%減となっています。物流用のフォークリフトトラックの生産は平成15年が前年比7.7%増で今年1～6月実績も前年同期比16.3%増となり，物流業界関連の活況が反映されているようです。

デジタルカメラは15年生産が前年比48.3%増と著増，今年上半期も前年同期比25.5%増と増伸，ビデオカメラは15年生産が前年比18.6%増，今年上半期も前年同期比29.6%増と生産拡大を続けている状況です。

パソコンは15年生産が前年比7.0%減となりましたが、今年1～6月生産では前年同期比9.2%増と回復へ向かっています。携帯電話は15年生産が前年比29.1%増でしたが、今年1～6月は前年同期比10.6%減となっています。

液晶テレビは平成12年に生産統計を開始して以来年々増加しており、平成15年は前年比11.1%増の183.3万台に、今年1～6月上旬半期は116.7万台で前年同期比53.3%増の大幅な伸びとなっています。

一方、家電製品でも“白物家電”といわれる電気洗濯機、電気冷蔵庫などは海外への生産移転に伴い国内における生産は年々減少の傾向にあります。電気洗濯機の実生産は01年405.8万台、02年352.4万台、03年313.2万台と減少、今年は新機種の開発生産で1～6月156.8万台と年間ベースでやや回復もみせています。電気冷蔵庫も01年387.5万台、02年331.6万台、03年285.9万台、今年1～6月149万台と推移しています。

また今夏は記録的な猛暑の年となりエアコンが売れて今年1～6月半年間の生産が343万台と年間ベースで前年を上回る生産台数となりましたが、海外生産と季節商品という性格の家電製品です。

この表にはあげていませんが、電子レンジも01年には267万台でしたが02年は212万台、03年171万台、今年1～6月66.6万台に、カラーテレビも海外移転と液晶やプラズマテレビの出現で01年の166万台から02年148万台、03年122万台、今年1～6月は48.6万台と国内生産は減少しています。家電業界ではデジタル家電など“新三種の神器”到来とも言われたりしますが、現状はスピードの要求される時代であり、商品サイクルの激しい時代が続いていきそうです。

Note

# イワタボルトはあなたの会社に 最適締結システムを提供します

本社 〒141 8508 東京都品川区西五反田 2 32 4  
☎03 (3493) 0211 (代表) FAX 03 (3493) 2096

五反田営業所 ☎03 (3493) 0221 (代表)

本社SOFI課 ☎03 (3493) 0251

本社海外課 ☎03 (3493) 0254

本社資材課 ☎03 (3493) 0252

技術開発課 ☎03 (3493) 0214

栃木工場 〒329 2331 栃木県塩谷郡塩谷町大字田所字八汐1601 6  
☎0287 (45) 1051 (代表) FAX 0287 (45) 1053

埼玉工場 〒340 0813 埼玉県八潮市木曾根1139番地  
☎048 (995) 1331 (代表) FAX 048 (995) 1334

一関営業所 ☎021 0902 岩手県一関市萩荘字打ノ目 244 1  
☎0191 (24) 4110 (代表) FAX 0191 (24) 4180

山形営業所 〒990 0813 山形県山形市桧町 3 8 34  
☎023 (681) 1170 (代表) FAX 023 (681) 1171

仙台営業所 〒981 1224 宮城県名取市増田 6 3 46  
☎022 (384) 0265 (代表) FAX 022 (384) 0694

福島営業所 〒963 0111 福島県郡山市安積町荒井字苜谷地41 1  
☎024 (945) 9610 (代表) FAX 024 (945) 9605

宇都宮営業所 〒320 0071 栃木県宇都宮市野沢町字桜田372 13  
☎028 (665) 4661 (代表) FAX 028 (665) 4662

栃木分室 〒321 3325 栃木県芳賀郡芳賀町芳賀56 2ホノダ開発ビル  
☎028 (677) 4721 (代表) FAX 028 (677) 4719

上田営業所 〒386 0005 長野県上田市古里 29 23  
☎0268 (26) 1295 (代表) FAX 0268 (26) 1259

群馬営業所 〒370 3524 群馬県群馬郡群馬町大字中泉 621 6  
☎027 (372) 4361 (代表) FAX 027 (372) 4366

太田営業所 〒373 0841 群馬県太田市岩瀬川町 113 3  
☎0276 (46) 1796 (代表) FAX 0276 (46) 1764

埼玉営業所 〒364 0013 埼玉県北本市中丸 4 72 番地  
☎048 (591) 2212 (代表) FAX 048 (591) 2261

川越営業所 〒350 1144 埼玉県川越市稲荷町 15 1  
☎049 (244) 1671 (代表) FAX 049 (244) 1745

つくば営業所 〒305 0045 茨城県つくば市梅園 2 27 25  
☎029 (855) 0764 (代表) FAX 029 (855) 0769

千葉営業所 〒292 0834 千葉県木更津市潮見 6 10  
☎0438 (37) 3094 (代表) FAX 0438 (37) 3194

多摩営業所 〒196 0032 東京都昭島市郷地町 2 38 3  
☎042 (541) 5534 (代表) FAX 042 (541) 6416

川崎営業所 〒212 0016 神奈川県川崎市幸区南幸町 2 72 1  
☎044 (522) 4101 (代表) FAX 044 (522) 4106

厚木営業所 〒243 0203 神奈川県厚木市下荻野518番地  
☎046 (241) 7021 (代表) FAX 046 (241) 7023

藤沢営業所 〒252 0804 神奈川県藤沢市湖南台 1 21 5  
☎0466 (44) 1277 (代表) FAX 0466 (44) 8816

横須賀営業所 〒237 0072 神奈川県横須賀市長浦町 1 2  
☎046 (823) 2724 (代表) FAX 046 (823) 1657

富士営業所 〒419 0201 静岡県富士市厚原 367 7  
☎0545 (71) 3588 (代表) FAX 0545 (71) 2538

浜松営業所 〒430 0831 静岡県浜松市御給町 179 1  
☎053 (425) 1118 (代表) FAX 053 (425) 9448

刈谷営業所 〒448 0803 愛知県刈谷市野田町新上納 29 1  
☎0566 (24) 6321 (代表) FAX 0566 (24) 6326

名古屋営業所 〒452 0847 愛知県名古屋市中区野南町78番地  
☎052 (502) 7761 (代表) FAX 052 (502) 7763

三重営業所 〒510 0874 三重県四日市市河原田町藤市 916 1  
☎0593 (47) 1941 (代表) FAX 0593 (47) 1867

大阪営業所 〒581 0814 大阪府八尾市楠根町1丁目1番地  
☎0729 (23) 7910 (代表) FAX 0729 (23) 7911

福岡営業所 〒824 0058 福岡県行橋市長木字帽子形 372 1  
☎0930 (23) 9444 (代表) FAX 0930 (23) 9451

久留米分室 〒839 0808 福岡県久留米市東川新町 11 13  
☎0942 (45) 3451 (代表) FAX 0942 (45) 3452

IWATA BOLT HONG KONG CO., LTD.  
UNIT B, 1/F, KOON WAH MIRROR GROUP  
BUILDING, NO.2 YUEN SHUN CIRCUIT, YUEN  
CHAU KOK, SHATIN, N.T. HONG KONG.  
☎852 2649 9110 FAX 852 2646 6119

IWATA BOLT (SHANGHAI) CO., LTD.  
PART B, NO.39 BUILDING, 461 HUA JING ROAD,  
SHANGHAI WAIGAOQIAO FREE TRADE ZONE,  
P. R. CHINA ZIP 200131  
☎86 21 5046 3037 FAX 86 21 5046 3038

IWATA BOLT (SHENZHEN) CO., LTD.  
NO.001-12, TONG FU YU INDUSTRIAL PARK,  
TANG XIA YONG VILLAGE, SONGGANG TOWN,  
BAO'AN, SHENZHEN, GUANGDONG PROVINCE,  
P.R. CHINA ZIP 518105  
☎86 755 2714 0442 FAX 86 755 2714 0443

IWATA BOLT TRADING (SHENZHEN) CO., LTD.  
UNIT 126 BUILDING NO.3,  
INTERNATIONAL COMMERCIAL AND  
EXHIBITION CENTER,  
1001 HONG HUA ROAD, FUTIAN FREE TRADE  
ZONE, SHENZHEN GUANGDONG PROVINCE,  
P.R. CHINA ZIP 518038  
☎86 755 8359 1800 FAX 86 755 8359 1900

IWATA BOLT (THAILAND) CO., LTD.  
41/30 BLOCK C-8, BANGNA-TRAD RD. KMS.  
16.5,  
T. BANGCHALONG, A. BANGPLEE,  
SAMUTPRAKARN 10540 THAILAND  
☎66 2 740 7860 FAX 66 2 740 7863

IWATA BOLT (S) PTE. LTD.  
NO.10 BENOI CRESCENT JURONG TOWN  
SINGAPORE 629973  
☎65 6266 3794-3795 FAX 65 6266 2115

IBK FASTENER MALAYSIA SDN. BHD  
No.2, JALAN PJS 11/3 BANDAR SUNWAY  
46510 PETALING JAYA SELANGOR, MALAYSIA  
☎60 3 56380215 FAX 60 3 56380218

IWATA BOLT USA INC. ロサンゼルス工場  
7131 ORANGEWOOD AVE. GARDEN GROVE,  
CALIFORNIA 92841-1409 USA  
☎1 714 897 0800 FAX.1 714 897 0888

IWATA BOLT USA INC. ロサンゼルス支店  
13128 A-2 IMPERIAL HWY SANTA FE SPRINGS.  
CALIFORNIA 90670 USA  
☎1 562 407 3111 FAX.1 562 407 3555

IWATA BOLT USA INC. アトランタ支店  
5324 GA HWY 85 SUITE 900  
FOREST PARK. GEORGIA 30297 USA  
☎1 404 762 8404 FAX.1 404 669 9606

IWATA BOLT USA INC. オハイオ支店  
7446 WEBSTER STREET DAYTON, OHIO 45414  
USA  
☎1 937 454 1277 FAX.1 937 454 1480

IWATA BOLT USA INC. ナッシュビル支店  
401 AIRPARK CENTER DRIVE NASHVILLE, TN  
37217 USA  
☎1 615 365 1201 FAX.1 615 365 1206

IWATA BOLT USA INC. カナダ支店  
1199 RINGWELL DRIVE, UNIT B, NEWMARKET,  
ONTARIO L3Y 7V1 CANADA  
☎1 905 953 9433 FAX.1 905 953 0167

IWATA BOLT MEXICANA, S.A. DE C.V.  
CALLE PROLONGACION. 610 COLONIA  
ALAMO INDUSTRIAL, GUADALAJARA, JAL.  
MEXICO CP 45560  
☎52 33 3666 2370 FAX.52 33 3666 2373

ISO14001認定企業・ISO9001認定企業

URL <http://www.iwatbolt.co.jp/>

# イワタボルト株式会社